名古屋YMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。　No.784 2023

YMCA News 3

2023年3月1日発行
1952年5月13日発刊
毎月1日（月刊定価1部60円）
（購読料はYMCA会費に含まれています）
公益財団法人名古屋YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村　隆
●編集人 坂本清則

卒園・卒業の時を迎えて

南山幼稚園

今年度卒園する子どもたちのほとんどは、感染症による一斉休園から園生活が始まりました。子どもも保護者の方も、私たち教職員も不安でいっぱいだったことを思い出します。そのような中でも、南山幼稚園では子どもたちの経験の機会を大切に過ごしてきました。経験は、人生を彩ります。幼稚園での経験が、子どもたちのこれからの人生に、たくさんの色を増やしていくきっかけになると嬉しいです。

そして、これから先のすべての出会いに感謝し、何事にも愛を持って歩んでいくことを願いつつ、56名の子どもたちを小学校に送り出したいと思います。

（教諭　原田 和実）

ユースボランティアリーダー活動から得られたもの

休日にあまり外に出かけることがない僕にとって、山登りやキャンプなどは新鮮な体験や驚きの連続でした。特に夏休みの日和田冒険キャンプが記憶に残っています。3泊4日の長期間子どもたちと一緒に過ごし、外に出て遊んだり、オリジナルのカレーを作って食べたり、歌ったりしました。雨の時にはカッパを着て森遊びに行き、子ども達が楽しいと言ってくれました。大変だったけれど、最終日の帰り際に泣きながら「まだ居たい」と言ってくれる子どもがいて、楽しんでくれたんだととても嬉しく感じ、僕自身もまだ居たいなと思いました。

振り返ってみれば、それがYMCAにハマった瞬間だったと思っています。この瞬間があったからこそ、子どもたちが楽しんでくれるためにはどうすればいいのか、どう伝えればいいのかと考えていくきっかけになりましたし、伝え方の難しさを知る機会にもなりました。様々な経験や伝え方を得られたのはYMCAに参加したからこそだと思います。活動に参加してよかったと思っています。

（トミーリーダー　久野 颯）

※今年の卒業リーダーは6名です。

「これからも共に」

ご卒業おめでとうございます。リーダー活動をスタートした時のことを覚えていますか？きっとスタートした時には想像もしていなかった多くの人との出会いと経験を重ね、実りある活動をされたことでしょう。4月から新しい環境に踏み出したときに気付く、当たり前のように過ごしていた仲間との時。ふとした瞬間に思い出される子ども達や仲間の笑顔。そんな時は気兼ねなく遊びに来てください。YMCAの魅力はいくつになってもつながることができ、共に過ごすことができることです。

今後の皆さんの活躍を願っています。

（名古屋YMCAスタッフ　谷口 みはる）

「チャリティーノート」で“みつかる・つながる・よくなっていく”

名古屋インターアクトクラブ　瀬尾 舞

名古屋インターアクトクラブは、毎月第1金曜日にミーティングを行い、私達高校生が「社会」に対して貢献できることはないかということについての意見を交わしています。その中で、インターアクターの強みと、子ども達との交流の機会を生かして、YMCAの子どもたちと共に、児童養護施設で暮らす子どもたちを手助けしたいと考えました。その思いが今回の「チャリティーノート」作成・販売へと繋がりました。

まず、児童養護施設のスタッフの方に直接お話を聞く機会を設け、私達自身の理解を深めました。その後、名古屋YMCA学童保育プログラム「アフタースクールFun!」の子どもたちに[児童養護施設]について紙芝居形式で説明をして、「チャリティーノート」の表紙にする絵を描いてもらいました。子どもたちは、思い思いに個性あふれる素晴らしい絵を描いてくれたので、私達は感激しました。そして、その絵をコラージュして表紙にした「チャリティーノート」を発注し、晴れて販売することになりました。

また、活動POPを作成し、ご購入いただく際に「チャリティーノート」と一緒に渡すことで、私たちの活動内容を知ってもらう形をとりました。この「チャリティーノート」を手にした人が、異なる環境で暮らす子ども達のことを考えてもらうきっかけになれば嬉しいです。「チャリティーノート」の売り上げは、児童養護施設・南山寮へ寄付させていただきます。引き続きご協力をお願いします。

注)名古屋インターアクトクラブ　高校生のボランティアグループ。名古屋ロータリークラブの支援を受け、様々な高校の学生が集まり活動をしています。昨年はクリスマスカード交換プログラムの実施、チャリティーランへの参加、アフタースクールFun！への参加、キャンプリーダーとしての参加など、様々な活動をしています。

＊「チャリティーノート」は1冊300円で各YMCA窓口にてご購入いただけます。

第62回イースター合同早天礼拝

4月9日(日)午前7時～午前8時

日本基督教団名古屋中央教会

(地下鉄栄駅⑤出口すぐ)

超教派のキリスト教の教会・学校・団体で構成する「名古屋キリスト教協議会」が主催するイースター礼拝です。YouTubeの同時配信も行なわれます。QRコードを読み込んでご視聴ください。

報告　2022年度クリスマス献金

実施期間中に寄せられた献金総額は、

695,612円 でした。

ご協力いただきありがとうございました。皆様からのご支援は、下記の通りに用いさせていただきます。

①「青少年育成」
(ユースボランティアリーダー育成や学童キャンプの貧困児童対策等)

②「国際協力」
(留学生の生活支援や日韓ユースセミナーの支援等)

③「地域奉仕」
(クリスマスキャロルや地域関係団体との共働等)

今年度は献金封筒にツリーの塗り絵やメッセージ欄を設け、各拠点でデコレーションして飾りました。子どもたちは飾られた塗り絵を見て「どうやって描いたの？」「これすごいね！」など声を掛け合い、楽しそうに参加してくれました。

今後も「協力したい」と思っていただけるよう様々な工夫をし、募金活動に繋げていきたいと思います。

(クリスマス献金実行委員　平 真輝)

恒例の書き初めを行いました

名古屋YMCA日本語学院

1月に、各クラスで恒例の書き初めを行いました。

学生たちは、これまでにいろいろな漢字を勉強してきたわけですが、「筆で書くのは初めて」という学生がほとんどで、その表情は真剣そのもの。同じ字を何回も繰り返し練習している人もいれば、いろいろな字を試している人もいます。日本人なら書き初めでは書かないような字を選んだ学生に理由をたずねると、「見た目がかっこいいから」。なるほど、字の意味よりもデザインを重視したわけですね。

授業終了時に、全員が自分のベストの作品を提出しました。その85点の中から、教師、スタッフの投票により金賞１点、銀賞6点を選出し、表彰を行いました。早くも「来年は何を書こうかな」と言っている学生もおり（鬼が笑いますね）、楽しい学びの場になったようです。

（主任教員　犬飼 英男）

そつえんする　みんなへ

かみさわほいくえん

ほいくえんにきたばかりのときは　ちいさくておしゃべりもできなかったみんな。

いまでは　たのしかったことも　うれしかったことも、かなしかったことも　くやしかったことも　いろんなことを　みんならしくつたえることが　できるようになりました。

しょうがっこうにいったら　きっともっとたのしいことも　むずかしいことも　たくさんあるとおもいます。でもみんななならだいじょうぶ！みんならしく　おおきくなっていくことを　いのっています！

いろんなじかんを　いっしょにすごせたことは　せんせいのたからものです。ありがとう。

そして　そつえんおめでとう！

（年長クラス担任　なかむら みさ）

総主事コラム

FUKUSHIMA

東日本大震災から12年の時が過ぎようとしています。震災後、岩手県や宮城県の沿岸部での支援活動には幾度も参加いたしましたが、福島県には行く機会がありませんでした。今回、仙台から常磐自動車道を南下し、はじめて南相馬市まで訪ねることができました。残念ながら時間が足らず福島第一原発の姿が見える場所まではたどり着けませんでしたが、いまだに帰還困難地域に指定されている近くまで訪問すると、やはり心がドキドキします。津波による被災地の復興が進む中、取り残された地域が確か存在します。復興庁のホームページには『現在原発周辺には、空間線量率がいまだ高いために、立ち入りが原則禁止され、居住を制限するとされている「帰還困難区域」があります。ただし、福島県面積の2.4%です。』と記されており、ひとり一人の思いに寄り添えない表現に、強い憤りを覚えます。国道6号線で仙台に戻る道中には、相馬･新地町共同火力発電所2基がフル稼働し、白煙を上げています。電力不足を補うために原発の再稼働が進められ、環境を守ると言いながら火力発電をフル稼働。国道6号線は大都会東京へと続いており、電気代こそ上がりましたが、夜は明るく、冬でも暖かい生活が守られています。

東日本大震災の死者数は1万5900人、行方不明者は2523人。トルコ･シリア大地震では3万人（2/14現在）を超える方が犠牲になったと報道されています。ロシアによるウクライナ侵攻による犠牲者や避難者は、正確な人数さえもわからない悲惨な状況が今も続いています。一つの命にはそれぞれに素晴らしい人生があり、数の大小で計るものではありません。ひとり一人の生命の尊厳が大切に守られることを願ってやみません。

（中村 隆）

ピンクシャツデー報告　～自分自身を愛するように～

実行委員会担当スタッフ　藤崎 理奈

“ピンクシャツデー”はいじめをなくすために行動を起こすキャンペーンです。そのための手がかりとして、「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」という聖句があります。そこで、2023年の“ピンクシャツデー”は「じぶんの素敵なところ、みんなの素敵なところ、みーつけた!!」をテーマとし、多くの方と一緒に活動をすすめました。

昨年度に引き続き、大学生リーダーたちがオリジナル動画を作成してYouTubeで配信してくれました。みんなそれぞれに賜物(素敵なところ)が与えられていて、お互いの良いところを尊重することの大切さが子どもにもわかりやすく伝わる動画でした。また、自分の素敵なところ、みんなから見た自分の素敵なところを書く「ステキシート」もリーダーが作成してくれました。

現代では、自分の良いところについて話をしたり他人をほめたりすることが少ないですが、“ピンクシャツデー”を通して自分自身の素敵なところ・得意なことが何かを考えて認識し、その良いところをいかして周りの人に何ができるかを考え、実践していく機会になったと思います。

“ピンクシャツデー”の期間が終わってからも、引き続きみんなが自分の良いところをいかし、世界にインパクトを与える生き方が広がっていくことを願っています。

維持会員感謝・ご寄付感謝(2022年12月22日～2023年2月20日)

維持会員（継続）

松浦　剛　真鍋　孔透　鬼頭美恵子　阿部　一雄　坂口　功祐　信田伊知郎　下村　明子　高田　士嗣
服部　庄三　早川　政人　原　晃　坂野　清治　松原　行謙　三井　秀和　鈴木　孝幸

寄付金

（一般寄付）　磯部　真知子(父尾関明昇天感謝)
（120周年記念）　名古屋ワイズメンズクラブ　今井　雄介　浅野　猛雄

クリスマス献金

大須賀章子　高島　由愛　内田　寛子　北村　称子　和田　芳子　平松千鶴代　安田千代美　谷口　明美
上林　寿子　辻　美代子　天野伊津歌　榊原ななえ　黒木　莉子　原田　和実　平田　湊也　西村　幸子
櫻井咲也叶　加藤　早織　田邉英里香　平田　裕理　森田　恵美　伊藤　佳織　加藤　京子　荒川　恒子
平尾　泉　木戸内智美　谷川　修　松井　克巳　川本　龍資　済田　真美　山本　和子　鵜野　凌成
平井　真希　山田　槙子　井上　真里　塚原日登美　池上　裕子　吉田　あき　原　寛　伊藤　遥人
伊藤　栞里　川口　裕子　鬼柳　隼大　尾関　望心　日本基督教団御器所教会

ワイズコーナー　3月例会の予定

名古屋	3月14日(火)19：00～	卓話「防災について」講師　高﨑 賢一氏	名古屋YMCA(ZOOM)
名古屋東海	3月 9日(木)18：45～	卓話 ※テーマは未定 講師　鈴木 一弘氏	ラ・スースANN
名古屋南山	3月 9日(木)19：00～	記念例会評価・今後の活動について	南山YMCA
名古屋グランパス	3月 3日(金)19：00～	卓話「作業療法について」講師　千賀 將氏	名古屋YMCA

早天祈祷会

日　時
3月7日(火) 7：45～8：30
会　場
名古屋YMCA５Fチャペル
奨　励
日本基督教団 南山教会
三好 祐輝 伝道師

お問い合わせ

名古屋YMCA	052-757-3331
YMCAこひつじ保育室	052-757-5530
南山ファミリーYMCA	052-831-6968
南山幼稚園	052-831-8271
神沢ファミリーYMCA	052-879-6300
YMCAかみさわ保育園	052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院	052-531-0077
発達サポートYMCAつるさと	052-823-2021
かりやYMCA保育園	0566-62-8227

https://nagoyaymca.org

名古屋YMCA使命
「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

2022年度聖句
「主に望みをおく人は新たな力を得　鷲のように翼を張って上る。」
（イザヤ書40章31節）